

2017年4月15日

私化連加盟学科各位

私化連理事会

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

先日、国立大40歳未満の教員の6割が任期付であるとの新聞報道([朝日新聞 2016.11.22](#))がなされました。人件費抑制のため、若手を中心に任期付教員数が年々増加しているとのこと。私大と比べ国立大は教員数が多いことから、単純な比較は難しいとは思いますが、私化連加盟学科における任期付教員の現状についての調査にご協力お願い申し上げます。

敬具

私化連アンケート

「任期付教員制度の現状」

Q1. 貴学では、任期付教員制度を導入していますか。

Ans. Yes (次へ進む) / No (Q5へ進む)

Q2. 貴学科に所属する任期付教員の職名と人数を教えてください。職名に任期付であることが明示されていない場合もそのままご記入ください。

(例)特任教授1名, 助教2名

Ans.

Q3. 任期は何年ですか。また、最大何年(通算)まで延長可能ですか。

Ans. 初回___年, 最大___年

Q4. 任期付教員の職務について詳細を教えてください。

(例)授業の責任コマ数は専任教員と同じだが、教授会に入れない。入試業務が免除される。

Ans.

Q5. 任期終了後、常勤となる制度(テニュアトラック等)はありますか。

Ans. Yes(次へ進む) / No(Q7へ進む)

Q6. テニユアトラック制度の詳細を教えてください(自由記入)。

(例)制度はあるが、任期付の期間も常勤と同じ1枠を使う(0.5枠を空けておく)事になるため、導入に躊躇している。

Ans.

Q7. 今後テニユアトラック制度を導入する予定はありますか。

Ans. Yes / No

Q8. 自由記述欄